

札幌芸術の森美術館 令和2年度収蔵候補作品リスト

No.	種別	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法	号数	取得方法	寄贈者	評価額(円)
01	絵画	竹岡羊子	Carnaval le Nice	1974年	油彩、キャンヴァス	170.0×400.0cm		寄贈	田畑浩一	4,000,000
02	絵画	砂澤ビッキ	狐をつくる女	1983年	コンテ、紙	217.5×132.4cm		寄贈		600,000
03	彫刻	五十嵐威暢	雲	1998年	大理石	18.0×74.0×75.5cm		寄贈	五十嵐威暢	1,000,000
04	彫刻	五十嵐威暢	木漏れ日-N-02	2007年	合板	154.0×153.0×0.2cm		寄贈	五十嵐威暢	1,500,000
05	彫刻	五十嵐威暢	Depth of the Sea	2011年	合板、墨汁、絹糸	265.0×180.0×26.5cm		寄贈	五十嵐威暢	2,500,000
06	彫刻	五十嵐威暢	ソラチの音	2013年	陶	(a) 14.8×14.8×14.5cm、 (b) 18.5×16.0×17.0cm、 (c) 17.0×15.5×15.5cm、 (d) 16.5×14.5×14.5cm、 (e) 15.0×15.0×16.0cm、 (f) 17.0×18.0×16.0cm、 (g) 15.5×17.0×17.0cm、 (h) 14.5×14.5×14.5cm、 (i) 15.0×19.0×17.0cm、 (j) 16.0×18.5×15.0cm、 (k) 15.5×15.0×15.0cm、 (l) 13.8×16.0×16.5cm、 (m) 14.5×15.0×15.5cm、 (n) 14.5×16.0×17.0cm [14点組]		寄贈	五十嵐威暢	2,800,000
07	彫刻	五十嵐威暢	雪山の夕	2013年	陶	5.0×51.5×55.5cm		寄贈	五十嵐威暢	1,000,000
08	彫刻	五十嵐威暢	Horizontal Feeling／ 菜の花	2018年	アクリル絵具、 板	100.0×200.0×5.9cm		寄贈	五十嵐威暢	3,000,000
09	版画	玉村拓也	乾杯／はりこから	1963- 83年	木版、紙	91.3×59.3cm		寄贈	安藤圭子	200,000
10	版画	玉村拓也	ビデオ草紙 1. みんなの衆	1974年	リトグラフ、紙	71.0×49.0cm		寄贈	安藤圭子	200,000
11	版画	玉村拓也	舞踏会	1988年	木版、紙	51.2×36.3cm		寄贈	安藤圭子	150,000
12	版画	玉村拓也	カーテンコール	1989年	木版、紙	51.5×38.0cm		寄贈	安藤圭子	150,000
13	版画	玉村拓也	乗馬	1990年	木版、紙	51.0×36.0cm		寄贈	安藤圭子	150,000
14	版画	玉村拓也	ヴェッキオ橋カルテット	1991- 2007年	木版、紙	51.5×36.3cm		寄贈	安藤圭子	150,000
15	版画	玉村拓也	男のプロフィル	1995年	木版、紙	71.7×51.2cm		寄贈	安藤圭子	200,000
16	版画	玉村拓也	チューリップとアトリエ	1995年	木版、紙	45.8×51.3cm		寄贈	安藤圭子	150,000

札幌芸術の森美術館 令和2年度収蔵候補作品リスト

No.	種別	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法	号数	取得方法	寄贈者	評価額(円)
17	版画	玉村拓也	エーゲ海譚歌	2001年	木版、紙	51.7×44.0cm		寄贈	安藤圭子	150,000
18	版画	玉村拓也	風神	2011年	シルクスクリーン、紙	57.4×42.6cm		寄贈	安藤圭子	150,000
19	デザイン	五十嵐威暢	動物イラストレーション イヌ	1973年	シルクスクリーン、ケント紙	92.8×90.3cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
20	デザイン	五十嵐威暢	動物イラストレーション オットセイ	1973年	シルクスクリーン、ケント紙	92.8×90.3cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
21	デザイン	五十嵐威暢	動物イラストレーション クジャク	1973年	シルクスクリーン、ケント紙	92.8×90.3cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
22	デザイン	五十嵐威暢	動物イラストレーション サカナ	1973年	シルクスクリーン、ケント紙	92.8×90.3cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
23	デザイン	五十嵐威暢	動物イラストレーション ライオン	1973年	シルクスクリーン、ケント紙	92.8×90.3cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
24	デザイン	五十嵐威暢	アートポスター	1975年	オフセット印刷、紙	103.0×72.8cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
25	デザイン	五十嵐威暢	「サマージャズ(第11回)」ポスター	1979年	オフセット印刷、紙	72.5×51.5cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
26	デザイン	五十嵐威暢	「能」ポスター	1981年	オフセット印刷、紙	72.8×103.0cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
27	デザイン	五十嵐威暢	「Expo'85」ポスター	1982年	オフセット印刷、紙	103.0×72.8cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
28	デザイン	五十嵐威暢	「サマージャズ(第14回)」ポスター	1982年	オフセット印刷、紙	72.5×51.5cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
29	デザイン	五十嵐威暢	「ハワイのグラフィックデザイン展」ポスター	1982年	オフセット印刷、紙	103.0×72.8cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
30	デザイン	五十嵐威暢	「サマージャズ(第15回)」ポスター	1983年	オフセット印刷、紙	72.5×51.5cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
31	デザイン	五十嵐威暢	「五十嵐威暢展」ポスター	1984年	オフセット印刷、紙	103.0×72.8cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
32	デザイン	五十嵐威暢	「第9回(昭和59年度)神奈川芸術祭」ポスター	1984年	オフセット印刷、紙	103.0×72.8cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
33	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1984年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
34	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1985年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000

札幌芸術の森美術館 令和2年度収蔵候補作品リスト

No.	種別	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法	号数	取得方法	寄贈者	評価額(円)
35	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1986年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
36	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1987年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
37	デザイン	五十嵐威暢	「French Revolution」ポスター	1988年	オフセット印刷、紙	84.0×59.7cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
38	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1988年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
39	デザイン	五十嵐威暢	「New Polaroid Impulse」ポスター	1988年	オフセット印刷、紙	88.0×58.8cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
40	デザイン	五十嵐威暢	ザンダースカレンダー	1989年	オフセット印刷、紙	各 57.7×80.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
41	デザイン	五十嵐威暢	「Takenobu Igarashi Living Objects」ポスター	1989年	オフセット印刷、裁断、ステッチ、紙	50.2×50.2cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000
42	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1989年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
43	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1990年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
44	デザイン	五十嵐威暢	MoMA ポスターカレンダー	1991年	オフセット印刷、紙	各 72.8×103.0cm [12点組]		寄贈	五十嵐威暢	600,000
45	デザイン	五十嵐威暢	「狂言」ポスター	2017年	オフセット印刷、紙	103.0×72.8cm		寄贈	五十嵐威暢	50,000

本郷新記念札幌彫刻美術館 令和2年度収蔵候補作品リスト

No.	種別	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法	号数	取得方法	寄贈者	評価額(円)
01	彫刻	本郷 新	鳥の碑	1963年 (2020年 casting)	ブロンズ	194.0×57.0×51.5cm コンクリート製台座部分と作品本体を一体で casting したため、台座を含めた高さ。		新規 casting		7,300,000

作家名	たけおか・ようこ	作品名	Carnaval le Nice		
	竹岡羊子		Carnaval le Nice		
	TAKEOKA, Yoko				
生没年	1931-	作品名 補足			
出生地	福岡県太宰府市	制作年	1974 年		
No Image		技法 材質	油彩、キャンヴァス		
		寸法	170.0×400.0cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数	評価額	4,000,000	円

作家略歴

1931年、福岡県太宰府市生まれ。1955年、札幌に移り住み、以降画家として活動。独立展、女流画家協会展、全道展各会員。1967年からヨーロッパの祝祭をテーマとした作品に着手し、現在に至るまで50余年カーニバルを描くことをライフワークにしている。1970年、《CARNAVAL =クラウン》にて女流画家協会賞、H夫人賞を受賞。独立展では独立賞(1984年、1986年)を二度受賞。2011年札幌芸術の森美術館にて「竹岡羊子展ーカーニバル〜虚構の宴に魅せられて」開催、同年札幌芸術賞受賞。イタリア、スイス、フランスなどヨーロッパを中心に様々なカーニバルに足を運び、祝祭の様子やその周囲の人間模様を色彩豊かに表現した作品を生み出し続けている。

特徴

本作は、竹岡のライフワークであるカーニバルに取材したもので、最も取材回数が多いフランス南部ニースのカーニバルを主題としている。横長の巨大な画面には、玉乗りや空中ブランコ、フラフープなどを行うサーカスとそれを取り囲む群衆、楽器を吹く人々、画面中央奥にはカーニバルの名物でもある巨大な山車など、様々な要素が描かれている。後年の濃厚な色彩とは一線を画し、目映さを覚えさせる多彩な色遣いで、街の賑々しさを洋々と伝えている。既に当館では7点の油彩、1点の版画の竹岡作品を所蔵しているが、1970年代中頃の作品は所蔵しておらず、また本作はその中でも最大級の作品となる。

作家名	すなざわびっき	作品名	きつねをつくるおんな		
	砂澤ビッキ		狐をつくる女		
	SUNAZAWA, Bikky				
生没年	1931-1989	作品名 補足			
出生地	北海道旭川市	制作年	1983年		
No Image		技法 材質	コンテ、紙		
		寸法	217.5×132.4cm		
		取得方法	寄贈		
選定年度	令和2年度	エディション			
		号数	評価額	600,000	円

作家略歴

1931年、父・砂澤市太郎(アイヌ名トアカンノ)と母・ペラモンコロ(ベアモンコロ、ペラモンコロなど諸説あり)の子として北海道旭川市に生まれる。1953年、22歳の時に木彫を始め、モダンアート協会に所属し、読売アンデパンダン展などにも出展。阿寒湖畔と鎌倉市を往来しながら制作と発表を続ける。1959年、旭川市に戻り、北海道と東京を中心に多数の展覧会に出展。1978年には北海道中川郡音威子府村に移住し、廃校となった箴島小学校跡地をアトリエとする。1983年、北海道生活文化・スポーツ海外交流事業の派遣員としてカナダのブリティッシュ・コロンビアに3ヶ月間滞在し、作品を制作。1986年、札幌芸術の森野外美術館に野外彫刻《四つの風》を設置。1989年、骨髄がんにより逝去。

特徴

本作は、写真撮影の際に背景として使われる大きなバック紙に描かれている。スケッチブックサイズが大半を占める砂澤ビッキの素描としては、巻物を除けば最大級となる貴重な作品である。画面上には太くて濃い線が広がり、人間のものとも動物のものともおぼつかない眼、尾、歯、顔のようなものが随所に見られる。この大胆かつ不可思議な筆触によって、生命の持つ神秘的なエネルギーが沸々と浮き上がってきているような印象を受ける。こうした砂澤特有の筆触は、1970年代終盤頃からの素描やグワッシュ作品に見られ、没する直前まで多数生み出された。本作はその中でも比較的早い時期に制作されたものと言える。なお、本作は「樹氣—砂澤ビッキ展」(2001年)に出品されている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	くも	
	五十嵐威暢		雲	
	IGARASHI, Takenobu			
生没年	1944-			
出生地	北海道滝川市	作品名 補足		
No Image		制作年	1998 年	
		技法 材質	大理石	
		寸法	18.0×74.0×75.5cm	
取得方法	寄贈	エディション		
選定年度	令和2年度	号数	評価額	1,000,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

デザイナーから彫刻家に転身した当初、五十嵐が取り組んだ素材が大理石であった。その時の作例の一つ。頭でコンセプトを考え、それを確実に実現するための作業を行うデザイナー時代の制作手法とは異なり、プランを定めず、素材と対話をしながら彫り進める。ノミ跡を残しながら仕上げられた本作は、石という重厚な素材の持つ存在感の一方で、柔らかく軽やかな印象をも感じさせる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	こもれば-N-02		
	五十嵐威暢		木漏れ日-N-02		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	2007 年		
No Image		技法 材質	合板		
		寸法	154.0×153.0×0.2cm		
		エディション			
取得方法	寄贈	号数	評価額	1,500,000 円	
選定年度	令和2年度				

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

札幌芸術の森美術館前庭に設置されている屋外彫刻作品《Komorebi》と同じ流れを汲むシリーズの作例。本シリーズは、2005年頃にアトリエをロサンゼルスから自然豊かな神奈川県三浦半島に移した後から制作された。自らの記憶を手掛かりに、虫や草花など、山・森・川・海に生きる動植物や、星や雲など自然にまつわる森羅万象を思わせる形態を、合板にフリーハンドで即興的に開けていく。種々の単純化されたフォルムから、自然の生き生きとしたリズムが感じられる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	Depth of the Sea		
	五十嵐威暢		Depth of the Sea		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	2011 年		
No Image		技法 材質	合板、墨汁、絹糸		
		寸法	265.0×180.0×26.5cm		
		取得方法	寄付		
選定年度	令和2年度	エディション			
		号数	評価額	2,500,000	円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

墨汁で黒く塗った合板を絹糸で結び合わせた作品で、合板同士を一気呵成に組み上げて制作されている。本作は、五十嵐が2000年代初頭から手掛ける「Calligraphy」シリーズの一つにあたる。同シリーズは、伊勢神宮の宝物殿で見た木片を糸で縫い上げた箱に感銘を受け、重力を感じさせない彫刻を作りたいという思いから出発したものである。初期はフィンランド産合板を素材に、そのままの木目を活かすか、あるいは白く塗装されていた「Calligraphy」シリーズだが、やがて北海道日高産のシナ合板を用い、墨汁で黒く塗った合板同士を組み合わせた、より書道を想起させる造形に移行している。本作は、そうした中期～近年の作例を代表するものである。類似する作例に、《予感の海へ》(2006年、東京ミッドタウン設置)、《地上を離れて》(2009年、日本興亜日本橋ビル設置)などがある。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	そらちのおと	
	五十嵐威暢		ソラチの音	
	IGARASHI, Takenobu			
生没年	1944-	作品名 補足		
出生地	北海道滝川市	制作年	2013 年	
No Image		技法 材質	陶	
		寸法	(a) 14.8×14.8×14.5cm、(b) 18.5×16.0×17.0cm、 (c) 17.0×15.5×15.5cm、(d) 16.5×14.5×14.5cm、 (e) 15.0×15.0×16.0cm、(f) 17.0×18.0×16.0cm、 (g) 15.5×17.0×17.0cm、(h) 14.5×14.5×14.5cm、 (i) 15.0×19.0×17.0cm、(j) 16.0×18.5×15.0cm、 (k) 15.5×15.0×15.0cm、(l) 13.8×16.0×16.5cm、 (m) 14.5×15.0×15.5cm、(n) 14.5×16.0×17.0cm [14 点組]	
取得方法	寄贈	エディション		
選定年度	令和2年度	号数	評価額	2,800,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

彫刻家に転身した後、2000年に初めてテラコッタの作品を手掛けて以降、陶は五十嵐の彫刻制作にしばしば用いられる素材である。五十嵐の用いる陶土は湯河原産と信楽産に大別できるが、湯河原の土は柔らかく、手で用意にかたちを変えることができ、一方、信楽は密度のある美しい風合いの土で、道具を使った成形に向いている。本作は、湯河原のクレーレ熱海ゆがわら工房にて制作された。本作に先立ち、《森と海と人の讃歌》(2011～2012年、大田区総合体育館設置)をクレーレ熱海ゆがわら工房と共同で制作しており、この経験を通じて、同工房の特色である釉薬の微妙な色合いに魅せられたという五十嵐は、2013年制作の本作、《ピンネッシリ光》(2015年、札幌禎心会病院設置)、《シュ、シャ、シッ 空と水と光に捧げる詩》(2015年、たんちよう釧路空港設置)と相次いで湯河原の陶土と釉薬を用いた彫刻作品を制作している。主に陶芸に用いられる湯河原の陶土は成形が容易であり、本作ではその特性を活かし、手や足を使った大胆な造形が試みられ、作品の表面には指や拳の痕がそのままに残されている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	ゆきやまのゆうべ	
	五十嵐威暢		雪山の夕	
	IGARASHI, Takenobu			
生没年	1944-			
出生地	北海道滝川市	作品名 補足		
No Image		制作年	2013 年	
		技法 材質	陶	
		寸法	5.0×51.5×55.5cm	
取得方法	寄贈	エディション		
選定年度	令和2年度	号数	評価額	1,000,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

彫刻家に転身した後、2000年に初めてテラコッタの作品を手掛けて以降、陶は五十嵐の彫刻制作にしばしば用いられる素材である。五十嵐の用いる陶土は湯河原産と信楽産に大別できるが、湯河原の土は柔らかく、手で用意にかたちを変えることができ、一方、信楽は密度のある美しい風合いの土で、道具を使った成形に向いている。本作は、信楽の大塚オーミ陶業にて制作された。陶の表面には木づちの柄、網、へらなどの道具の痕跡が残っている。その場で道具を選び、下図なしに陶を叩き、削って制作する「即興と偶然」を重視した制作姿勢が、本作でも見て取れる。大塚オーミ陶業にて制作される陶の作品は顔料を陶土に練り込んでから成形・焼成されることが多いが、本作では釉薬が用いられている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	Horizontal Feeling／なのはな		
	五十嵐威暢		Horizontal Feeling／菜の花		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	2018 年		
No Image		技法 材質	アクリル絵具、板		
		寸法	100.0×200.0×5.9cm		
		取得方法	寄付		
選定年度	令和 2 年度	エディション			
		号数	評価額	3,000,000	円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

1990 年代半ば頃から取り組むシリーズのひとつ。当時アトリエを構えていたアメリカ西海岸の、乾燥した大気のなかどこまでも水平線が広がる穏やかな雰囲気インスピレーションを受けたことを端緒とする。細長く切った木の板を一本一本感覚的に彫刻し、水平方向に敷き詰めることで制作される。白木のまま木目を活かした作品や、様々な色を組み合わせた作品などいくつかのバリエーションがあるが、本作は菜の花畑を思わせる鮮やかな黄色で着色され、一色ながらも 1 枚 1 枚違う刻まれ方の板によって豊かな表情を生みだしている。

作家名	たまむら たくや	作品名	かんぱい／はりこから		
	玉村拓也		乾杯／はりこから		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1963-83年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	91.3×59.3cm		
		エディション	2/30		
取得方法	寄贈	号数	評価額	200,000	円
選定年度	令和2年度				

作家略歴

1933年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968年、全道展会員。1983年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990年の「10人空間展」などにも参加している。2018年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

1962～63年頃に制作された「はりこから」と題するいくつかの作例があり、当時の作例では心のままに筆を走らせたような、画面を埋め尽くすほどの黒の描線の特徴としている。本作における黒色の部分は、1963年制作の「はりこから」と同様となっており、同じ版木を用い、赤と緑の版を新たに追加して制作したものと推察される。63年制作のものはインク量も多く、滲みやカスレも含め大胆に刷り取られているが、本作では黒の線の闊達さを保持しながらより明瞭となり、鮮やかな赤と緑の版が加わることによって、華やかさが加えられている。

作家名	たまむら たくや	作品名	びでおそうし1. みなもの衆		
	玉村拓也		ビデオ草紙 1. みなもの衆		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1974 年		
No Image		技法 材質	リトグラフ、紙		
		寸法	71.0×49.0cm		
		エディション	1/40		
取得方法	寄贈	号数	評価額	200,000	円
選定年度	令和2年度				

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版道の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

「多色と面」で構成しグアッシュで描いた絵画を、「単色と線」の版画として再生する、というコンセプトの「ビデオ草紙」シリーズの一つで、同時期にいくつかの作品が制作されている。勢いと鋭さを持った線と、細やかながら存在感を持って配された2色の色面をもって、自由闊達なフォルムが生みだされている。抽象的でありながらも、人間の顔を思わせるような有機性が感じられる。

作家名	たまむら たくや	作品名	ぶどうかい		
	玉村拓也		舞踏会		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1988 年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	51.2×36.3cm		
		エディション	5/50		
取得方法	寄贈	号数	評価額	150,000	円
選定年度	令和 2 年度				

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

黒色の背景に、バイオリンを演奏する女性が画面縦方向いっぱい配されている。周囲には人物や複数の馬が顔をのぞかせ、舞踏会の賑わいを表現している。同年に制作された《北の演奏会》(1991 年)は、同じ版を用いているものの、背景には山間の城が描写され、黄色と青という色の対比によって趣が異なる。第 43 回全道展出品作品。

作家名	たまむら たくや	作品名	かーてんこーる		
	玉村拓也		カーテンコール		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1989 年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	51.5×38.0cm		
		取得方法	寄贈	エディション	AP
選定年度	令和2年度	号数	評価額	150,000	円

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

舞台上で両手を広げた人物が喝采を浴びる様子が描かれている。画面上の勢いのある線が人物へと視線を誘導し、湧き上がる会場の様子を躍動感あふれる筆致で伝える。太さが一定ではない輪郭線や、モチーフを縦長の対角線上に配する構図は1980年代後半～1990年代前半の作品にみられる特徴で、なかでも本作はその構図とバリエーションのある線によって、舞台の華やかさとその場のにぎやかな様子が効果的に表現された好例といえるだろう。第44回全道展出展作品。

作家名	たまむら たくや	作品名	じょうば		
	玉村拓也		乗馬		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1990 年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	51.0×36.0cm		
		取得方法	寄贈	エディション	AP
選定年度	令和2年度	号数	評価額	150,000	円

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

乗馬を楽しむ二人の人物と、その背後に一頭の馬が描かれている。玉村作品において馬に騎乗した人物は、ヨーロッパの風景を描いた作品に頻出するモチーフである。背景や馬の体に見られる色面の組み合わせは、闊達な線で画面を埋め尽くす手法とは異なる表現であるが、その後に展開される直線を基軸とした作品群では色面による構成が散見され、本作はその萌芽とみなすことができるだろう。

作家名	たまむら たくや	作品名	うゑつきおばしかるてつと		
	玉村拓也		ヴェッキオ橋カルテット		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1991-2007 年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	51.5×36.3cm		
		エディション	4/25		
取得方法	寄贈	号数	評価額	150,000	円
選定年度	令和2年度				

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

画面中央には楽器を吹いている人物、そのまわりには作品名の「カルテット」を示唆する 4 羽の鳥が描かれる。本作には「'91-07」と記載されており、《ヴェッキオ橋の楽士》(1991 年、第 46 回全道展出展作品)の版をもとに 2007 年に制作されたものと考えられる。1991 年の作品と比較すると、赤の要素を減少させ、部分的に黒色の輪郭線を太くしており、同時期の作品に見られる輪郭線の太さによって強調する手法との共通点を見出すことができる。《ヴェッキオ橋カルテット》(2008 年、第 63 回全道展出展作品)では、同じ版をさらに彫り進めたと考えられ、2010 年代前後に見られる均質化された線へと整えられている。このように、本作は一つの版から時期ごとの特徴が反映された作例として、玉村の画業において重要な位置を占めていると言える。

作家名	たまむら たくや	作品名	おとこのぶろふいる		
	玉村拓也		男のプロフィール		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1995 年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	71.7×51.2cm		
		取得方法	寄贈		
選定年度	令和2年度	エディション			
		号数	評価額	200,000	円

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

画面の中央に位置する男性は、体内に複数の視点から捉えられた階段がひしめく姿で描かれている。階段を内包する人物像は、1995 年前後に複数制作していることから、重要なモチーフであると考えられ、本作はその中でも密度のある描写が際立つ、完成度の高い作例である。男の横顔や正面を向いた体は平面性を示す一方で、その体内で交差する階段が画面に奥行きをもたらし、効果的な対比を生み出している。第 73 回全道展展作品(遺作展示)。

作家名	たまむら たくや	作品名	ちゅーりっぷとアトリエ		
	玉村拓也		チューリップとアトリエ		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1995 年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	45.8×51.3cm		
		エディション	6/100		
取得方法	寄贈	号数	評価額	150,000	円
選定年度	令和2年度				

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

花瓶に入ったチューリップやレモン、イーゼルや楽器を演奏する人など、アトリエ内を描いた作品。黒色の線で描かれるモチーフの前後関係は曖昧であるものの、画面上にめぐらされた動きのある線によって各モチーフがまとめあげられている。平成 25 年度収蔵作品の静物画《窓辺のアンスリューム》(1991 年)は色面を主としているのに対し、本作は線的要素を多用しているため、本作の収蔵により玉村の静物画コレクションの充足を図ることができる。第 50 回全道展出展作品。

作家名	たまむら たくや	作品名	えーげかいたんか		
	玉村拓也		エーゲ海譚歌		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	2001 年		
No Image		技法 材質	木版、紙		
		寸法	51.7×44.0cm		
		取得方法	寄贈	エディション	AP
選定年度	令和2年度	号数	評価額	150,000	円

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版画の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

鬚をなびかせる馬を中心に、海や神話を連想させるモチーフが配置されている。玉村は 2000 年代より、シャープな細い輪郭線を取り入れ、軽やかでより洗練された描写を試みた。本作は中でも複数のモチーフを安定した構図でまとめた好例ととらえられる。同じ版を用いた色の異なる《エーゲ海譚歌》も存在する。

作家名	たまむら たくや	作品名	ふうじん		
	玉村拓也		風神		
	TAMAMURA, Takuya				
生没年	1933-2018	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	2011 年		
No Image		技法 材質	シルクスクリーン、紙		
		寸法	57.4×42.6cm		
		取得方法	寄贈	エディション	1/25
選定年度	令和2年度	号数		評価額	150,000 円

作家略歴

1933 年、北海道札幌市生まれ。北海道学芸大学卒業。1955 年、日本版画協会展に初入選したことを契機として本格的に木版道の道に進みはじめる。その後、1959 年の日本宣伝美術展奨励賞受賞を皮切りに、日本版画協会展協会賞(1961 年)、春陽会研究賞(同年)、版画新人ジャーナル賞展優秀賞(1962 年)などの受賞を重ね、頭角をあらわした。1968 年、全道展会員。1983 年の「イメージ・北方-北海道の美術」(北海道立近代美術館)、1987 年の「イメージ・響-北海道の美術」(同)、1988 年の「イメージ・動-北海道の美術」(同)や、1990 年の「10 人空間展」などにも参加している。2018 年逝去。すでに当館でも作品を所蔵している大本靖、渡会純价らとほぼ同時期から北海道の版画界を牽引してきた第一人者である。

特徴

同時期の 2010 年前後の作品には、直線を主とした構成や幾何学模様の配色が見られる作品も多いが、本作はそれらとは対照的に、流麗な線で構成されるフォルムと、そこに散りばめられた緑・赤・黄の 3 色が軽やかな印象を与えている。その一方で、随所の黒が画面を引き締めており、こうした特徴は 1974 年の「ビデオ草紙」シリーズにも通ずるものであろう。画面右上には楽器を吹いているかのようなモチーフも見られ、ヨーロッパに取材した作品の影響も窺うことができ、晩年期における結実的な作例とみることができる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	どうぶついらすとれーしょん いぬ		
	五十嵐威暢		動物イラストレーション イヌ		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1973 年		
No Image		技法 材質	シルクスクリーン、ケント紙		
		寸法	92.8×90.3cm		
		取得方法	寄贈		
選定年度	令和2年度	エディション			
		号数	評価額	50,000	円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

最初期の作例で、五十嵐の第1回目の個展に出品された。現実の動物から我々が受ける感情や印象を、ごくシンプルな、抽象的ともいえるフォルムで表現している。円や直線、曲線などベーシックな造形要素、作者の感情的な表現を排除して対象を見つめる冷静な視点、それでありながらどこかあたたかみのある表現など、五十嵐のデザイン哲学の一端を垣間見ることができる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	どうぶついらすとれーしょん おっとせい		
	五十嵐威暢		動物イラストレーション オットセイ		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1973 年		
No Image		技法 材質	シルクスクリーン、ケント紙		
		寸法	92.8×90.3cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

最初期の作例で、五十嵐の第1回目の個展に出品された。現実の動物から我々が受ける感情や印象を、ごくシンプルな、抽象的ともいえるフォルムで表現している。円や直線、曲線などベーシックな造形要素、作者の感情的な表現を排除して対象を見つめる冷静な視点、それでありながらどこかあたたかみのある表現など、五十嵐のデザイン哲学の一端を垣間見ることができる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	どうぶついらすとれーしょん くじゃく		
	五十嵐威暢		動物イラストレーション クジャク		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	1973 年		
		技法 材質	シルクスクリーン、ケント紙		
		寸法	92.8×90.3cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

最初期の作例で、五十嵐の第1回目の個展に出品された。現実の動物から我々が受ける感情や印象を、ごくシンプルな、抽象的ともいえるフォルムで表現している。円や直線、曲線などベーシックな造形要素、作者の感情的な表現を排除して対象を見つめる冷静な視点、それでありながらどこかあたたかみのある表現など、五十嵐のデザイン哲学の一端を垣間見ることができる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	どうぶついらすとれーしょん さかな		
	五十嵐威暢		動物イラストレーション サカナ		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	1973 年		
		技法 材質	シルクスクリーン、ケント紙		
		寸法	92.8×90.3cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

最初期の作例で、五十嵐の第1回目の個展に出品された。現実の動物から我々が受ける感情や印象を、ごくシンプルな、抽象的ともいえるフォルムで表現している。円や直線、曲線などベーシックな造形要素、作者の感情的な表現を排除して対象を見つめる冷静な視点、それでありながらどこかあたたかみのある表現など、五十嵐のデザイン哲学の一端を垣間見ることができる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	どうぶついらすとれーしょん らいおん		
	五十嵐威暢		動物イラストレーション ライオン		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	1973 年		
		技法 材質	シルクスクリーン、ケント紙		
		寸法	92.8×90.3cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

最初期の作例で、五十嵐の第 1 回目の個展に出品された。現実の動物から我々が受ける感情や印象を、ごくシンプルな、抽象的ともいえるフォルムで表現している。円や直線、曲線などベーシックな造形要素、作者の感情的な表現を排除して対象を見つめる冷静な視点、それでありながらどこかあたたかみのある表現など、五十嵐のデザイン哲学の一端を垣間見ることができる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	あーとぽすたー		
	五十嵐威暢		アートポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1975 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	103.0×72.8cm		
		エディション			
取得方法	寄贈	号数	評価額	50,000	円
選定年度	令和2年度				

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

五十嵐のデザインの代名詞ともいえるアクソメトリック図法(軸測投影図法)を用いた文字の作品は、1973年の「第5回サマージャズポスター」を皮切りに試みられているが、本作は文字ではなく、三次元的に折れ曲がる同一の太さの線のみよって、それらが複雑にからみあいながらも重なることなく整然と構成されている。本作は、クライアントからの依頼によるものではなく、1975年の第2回個展「五十嵐威暢展②」に出品されたもので、五十嵐の制作初期におけるシステムティックなデザイン構成の萌芽が窺える。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「さまーじゃず(だい11かい)」ぼすたー		
	五十嵐威暢		「サマージャズ(第11回)」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	1979 年		
		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	72.5×51.5cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

日比谷公園野外音楽堂で開催されるジャズフェスティバル「サマージャズ」のポスター。第5回(1973年)のサマージャズを皮切りに、1984年までのポスターを手掛けている。第5回のもものは、五十嵐の代名詞ともいえるアクソメトリック図法による立体文字をモチーフにした最初の作品となった。「JAZZ」という四つのアルファベットをさまざまなバリエーションで表現しており、即興的に奏でられるジャズの軽快さを思わせる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「のう」ぼすたー		
	五十嵐威暢		「能」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	1981 年		
		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	72.8×103.0cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

日本の伝統芸能である能をアメリカで上演するにあたってデザインされたポスター。UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)芸術学部主催の「UCLA 芸術学部アジア芸能夏期講座」の一環として行われ、デザイン評論家・勝見勝のキュレーションで制作されており、五十嵐を含め横尾忠則(日本舞踊)・福田繁雄(狂言)などが参加した。漢字の「能」と英語の「NOH」が組み合わせられたユニークなかたちには、二つの文化が出合い新たな展開が生まれることへの期待も込められている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「Expo'85」ほすたー		
	五十嵐威暢		「Expo'85」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1982 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	103.0×72.8cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数	評価額	50,000	円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

国際科学技術博覧会(つくば科学万博)の第2号ポスターとして制作された。(第1号田中一光(1981年)、第3号長岡秀星(1983年)、第4号和田誠(1984年)、第5号船橋全二(1984年))本作がニューヨーク近代美術館の目に留まり、本作を含む数点が同館に収蔵された。その際の売り込みによってMoMAポスターカレンダーが制作されることとなった。アクソメトリック図法による「EXPO」の文字をベースに、上下前後左右へと拡張・解体されており、細い延長線とともに広がりを感じさせる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「さまーじゃず(だい14かい)」ぼすたー		
	五十嵐威暢		「サマージャズ(第14回)」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	1982 年		
		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	72.5×51.5cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

日比谷公園野外音楽堂で開催されるジャズフェスティバル「サマージャズ」のポスター。第5回(1973年)のサマージャズを皮切りに、1984年までのポスターを手掛けている。第5回のもものは、五十嵐の代名詞ともいえるアクソメトリック図法による立体文字をモチーフにした最初の作品となった。「JAZZ」という四つのアルファベットをさまざまなバリエーションで表現しており、即興的に奏でられるジャズの軽快さを思わせる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「はわいのぐらふいっくでざいん」ぼすたー		
	五十嵐威暢		「ハワイのグラフィックデザイン展」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1982 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	103.0×72.8cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)主催による「ハワイのグラフィックデザイン展」のポスター。ハワイの特産品でもあるパイナップルをモチーフとし、背景色でもある緑と黒のみのシンプルな色彩で中央に大きく描かれており、目を引く。一見パイナップルを斜めの視点から描いただけのようにも見えるが、果実の網目部分は積み木が積み重なるように、建造物的な立体感を持って構成され、また中央部分に向かって高さを増すように描かれており、緻密な仕事ぶりが窺える。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「さまーじゃず(だい15かい)」ぼすたー		
	五十嵐威暢		「サマージャズ(第15回)」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	1983 年		
		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	72.5×51.5cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

日比谷公園野外音楽堂で開催されるジャズフェスティバル「サマージャズ」のポスター。第5回(1973年)のサマージャズを皮切りに、1984年までのポスターを手掛けている。第5回(1973年)のものは、五十嵐の代名詞ともいえるアクソメトリック図法による立体文字をモチーフにした最初の作品となった。「JAZZ」という四つのアルファベットをさまざまなバリエーションで表現しており、即興的に奏でられるジャズの軽快さを思わせる。

作家名	いがらし たけのぶ 五十嵐威暢 IGARASHI, Takenobu	作品名	「いがらしたけのぶてん」ポスター 「五十嵐威暢展」ポスター		
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1984 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	103.0×72.8cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数	評価額	50,000	円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

アトランタのアートディレクターズクラブの主催により行われた五十嵐の個展・レクチャーのポスター。キューブの積層によって作られたかのような立体的な文字を中心としながら、フリーハンドで描かれたかのようなA、構造の内部をくりぬかれたようなA、キューブの輪郭を構成するすべての白線を可視化したHなど、アイデアと変化が注ぎ込まれている。

作家名	いがらし たけのぶ 五十嵐威暢 IGARASHI, Takenobu	作品名	「だい9かい しょうわ 59 ねんど かながわけいじゅつさい」ほすたー 「第9回(昭和59年度)神奈川芸術祭」ポスター		
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1984 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	103.0×72.8cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数	評価額	50,000	円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

1984年開催の神奈川芸術祭のポスター。電子工学において回路設計の際などに用いられる計算図表にミスチャートというものがあり、本作はその造形的な美しさに着目した作品。複数の円弧によって構成される図表は本来線で表現されるが、本作では円形の点に置き換えられ、その連なりによって複雑な文様を生み出す。大小様々な円は個々として独立しながら、同時に集合体としての一要素を成しており、総合芸術祭としてのスケールや花火のような華々しさを感じさせる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMA い ぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1984 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイデアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMA い ぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1985 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイディアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMA い ぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1986 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイディアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMA い ぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1987 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイディアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「French Revolution '88」ポスター		
	五十嵐威暢		「French Revolution」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1988 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	84.0×59.7cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

フランス革命200年を記念して行われた「フランス革命200年祭」の一環として、世界的規模のポスター展『Artis'89』が行われ、その際出品されたポスター。人々の権利に関する単語が、ザンダースカレンダーやNew Poraloid Impulseポスターなどと同様に、文字を三次元的に回転させる手法で描かれている。青と白の市松模様を基調とした背景は、膨張したり波打ったりするように表現されており、三次元的な奥行きをさらに際立たせている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMA い ぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1988 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイディアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「New Polaroid Impulse」ポスター		
	五十嵐威暢				
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1988 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	88.0×58.8cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数	評価額	50,000	円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

ポラロイド社より1988年に新製品として発売されたインスタントカメラ Polaroid IMPULSE のポスター。アクソメトリック図法を用いて、カメラが描かれている。大きさの異なる黄色の円の配列によって、ポップアップフラッシュから放たれる光が表現され、また下部では印刷・排出されるフィルムが描かれており、明快な形態の中で商品の特徴が表されている。一方で上部の「NEW POLAROID IMPULSE」の文字は、ザンダースカレンダーや French Revolution ポスターと同様に、コンピューターによって文字を三次元的に回転させる手法を用いており、ドラフターによる手書きのデザインとコンピューターによるデザインとが共存している作例である。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	さんだーすかれんだー		
	五十嵐威暢		ザンダースカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1989 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 57.7×80.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

ドイツの高級紙ブランド・ザンダース社の依頼によって制作されたカレンダー。それまでの作品はドラフターを用いた手作業が中心であったが、本作は全面的にコンピューターのMacintosh PlusとグラフィックソフトPro3D/Macを用いて制作されている。立体化した数字を縦・横・斜めへと微妙に回転させながら、それぞれに変化を与えて見せることをコンセプトとしており、立体化された数字という五十嵐の代名詞にコンピューターでの処理が加わり、グラフィックデザインにコンピューターが導入された時代の先駆的な作例といえる。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「Takenobu Igarashi Living Objects」ポスター		
	五十嵐威暢		「Takenobu Igarashi Living Objects」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1989 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、裁断、ステッチ、紙		
		寸法	50.2×50.2cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

1989年に東京・ニューヨーク・ロサンゼルスで開催された展覧会「Takenobu Igarashi Living Objects」のポスター。展覧会では日本の伝統技術と地場産業に対する提言として「リビングオブジェクト」と題したプロダクトをデザインし、それらが出品された。再生紙に印刷した二枚の紙を型抜きし、糸で縫い合わせている。異なる素材同士が生み出す質感に着目しデザインされている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMA い ぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1989 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数	評価額	600,000	円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイディアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMA い ぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1990 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイディアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	MoMAIぼすたーかれんだー		
	五十嵐威暢		MoMA ポスターカレンダー		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-	作品名 補足			
出生地	北海道滝川市	制作年	1991 年		
No Image		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	各 72.8×103.0cm [12 点組]		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和 2 年度	号数		評価額	600,000 円

作家略歴

1944 年、北海道滝川に生まれる。1964 年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968 年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971 年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970 年代後半～1990 年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989 年、第 2 回勝見勝賞、同年、UCLA デザイン学部客員教授に就任(～1991 年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993 年)。1994 年、彫刻家に転身。1990 年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002 年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後の NPO 法人アートチャレンジ滝川)。2006 年、毎日デザイン賞特別賞。2007 年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011 年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015 年)。2020 年、北海道文化賞。

特徴

ニューヨーク近代美術館(MoMA)のポスターカレンダーとして制作された、五十嵐の代表作の一つ。それぞれの月は異なるアイディアによってデザインされ、ひとつとして同じ数字はない。コンピュータを使用した 1987 年の一部を除いて、すべて手作業によって描かれている。時に分解され、時にその骨組みをむき出しにし、またある時は機械の部品を思わせるねじや円盤によって構成された数字の一群。0 から 9 までの数字を使うというカレンダーならではの制約を逆に、自由な発想による無数のヴァリエーションが手仕事によって職人的に展開されている。なお、MoMA ではこの他ショッピングバッグやランプなどのグッズも手掛けている。

1991 年の本作は、過去 7 年分の MoMA ポスターカレンダーの中からベスト 12 を選び、モノクロで刷りなおしたものである。

作家名	いがらし たけのぶ	作品名	「きょうげん」ぼすたー		
	五十嵐威暢		「狂言」ポスター		
	IGARASHI, Takenobu				
生没年	1944-				
出生地	北海道滝川市	作品名 補足			
No Image		制作年	2017 年		
		技法 材質	オフセット印刷、紙		
		寸法	103.0×72.8cm		
取得方法	寄贈	エディション			
選定年度	令和2年度	号数		評価額	50,000 円

作家略歴

1944年、北海道滝川に生まれる。1964年、多摩美術大学美術学部デザイン科に入学。1968年に多摩美術大学卒業、同年、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)大学院環境デザイン科に進学。1971年、ドラフター(建築用製図台)を用いて、建築的透視図法をグラフィックデザインに応用したアクソメトリック図法による制作を開始、国際的な評価を受ける。1970年代後半～1990年代初頭にかけて、企業のロゴ計画等を多数手がける。1989年、第2回勝見勝賞、同年、UCLAデザイン学部客員教授に就任(～1991年)、多摩美術大学美術学部二部(現・造形表現学部)デザイン学科開設にあわせ初代学科長に就任(～1993年)。1994年、彫刻家に転身。1990年代後半から、パブリックアートを多く手掛ける。2002年、故郷滝川市のアートによる都市再生を目指し、五十嵐アート塾を発足(後のNPO法人アートチャレンジ滝川)。2006年、毎日デザイン賞特別賞。2007年、太郎吉蔵デザイン会議を開催(～現在)。2011年、廃校になった新十津川町立吉野小学校を改修し、アトリエ兼アートスペース「かぜのび」開館。同年、多摩美術大学学長(～2015年)。2020年、北海道文化賞。

特徴

1981年に手掛けた日本の伝統芸能をテーマとしたポスターでは「能」を制作した。2017年に、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)と早稲田大学による共同研究「柳井イニシアティブ日本舞台芸術プログラム」が行われ、36年前のリバイバル企画として、再び「日本の伝統芸能」をテーマにポスターシリーズが制作された。五十嵐を含め、永井一正、勝井三雄、長友啓典、上條喬久らが1981年のものと続けて参加している。《能》と対比して論じることが出来る、近年の貴重な作例。

作家名	ほんごうしん	作品名	とりのひ		
	本郷新		鳥の碑		
	HONGO, Shin				
生没年	1905-1980	作品名 補足			
出生地	北海道札幌市	制作年	1963年(2020年鑄造)		
No Image		技法 材質	ブロンズ		
		寸法	194.0×57.0×51.5cm *コンクリート製台座部分と作品本体を一体で鑄造したため、台座を含めた高さ		
		取得方法	新規鑄造		
選定年度	令和2年度	エディション			
		号数	評価額	7,300,000 円	

作家略歴

1905年、北海道札幌に生まれる。親はともに日本キリスト教会の前身北辰教会の信者であり、キリスト教信仰の環境下で育つ。札幌第二中学校(現北海道札幌西高等学校)に入学後、家の都合により上京し、順天中学校に4年まで在学。再び札幌に戻り、北海中学校(現北海高校)に転入し、卒業する。北海中学では、校内の美術部「どんぐり会」に籍を置いた。東京高等工芸学校(現千葉大学工学部)工芸図案科工芸彫刻部に入学し、高村光太郎に師事。ロダン、ブールデルなど西洋近代彫刻の影響を受けながら、写実を基盤とした造形を探究した。1928年、国画創作協会に初出品で入選を果たす。1939年には吉田芳夫、山内壯夫、柳原義達、舟越保武、佐藤忠良、明田川孝ら気鋭の若手とともに新制作派協会(現新制作協会)彫刻部を創設し、没する前年までここに継続して出品した。戦争という困難な時代状況のなかでも制作に励み、1942年には日本大学芸術科の講義ノートを元に著した彫刻論集『彫刻の美』を上梓する。

彫刻の社会性、公共性を重要視した本郷は、戦後、モニュメンタルな野外彫刻の制作に熱意を傾け、1950年、戦没学生記念像《わだつみのこえ》、《汀のヴィーナス》を東京に制作・設置した。その後、高度経済成長とともに公共空間への彫刻設置の需要が高まり、日本各地におよそ80点の野外彫刻が設置された。1953年、日本平和文化賞、1974年、第28回北海道新聞文化賞[社会文化賞]、1978年、第30回北海道文化賞を授賞。1977年、札幌宮の森にアトリエを完成させたものの、癌を患い、1980年、74歳で逝去。

特徴

本郷新記念札幌彫刻美術館が所蔵する本郷新《鳥の碑》(コンクリート造)が、平成30年11月28日に芯棒の腐食により転倒した。再設置等に当たって、以下6案の検討を行った。

①現コンクリート作品の再設置、②ブロンズ鑄造作品の新設置、③コンクリート成形作品の新設置、④FRP成形作品の新設置、⑤3Dスキャン・3Dプリンター成形作品の新設置、⑥石膏原型の展示

本郷新はコンクリートの《鳥の碑》を制作していた当初から、ブロンズ鑄造を希望していたことが確認され、また本郷新がコンクリートを選択したのは、新しい素材に関心があったことに加えて、ブロンズよりも安価だったため、ということから、上記案より「②ブロンズ鑄造作品の新設置」を選択、《鳥の碑》の石膏原型からブロンズ像を新鑄造し、屋外設置することとし、令和2年10月6日に作業を完了した。